

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズスタジオ オリーブの木ST.3				公表日	令和8年 2月 13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		活動スペースをできるだけ広く使えるよう、不要な物は置かず整理整頓を心がけている。子どもたちが自分で片付けしやすい収納棚を設置し、常に分かりやすく整った環境づくりを行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		配慮が必要な利用者が多い場合は、その日の利用状況に応じて環境設定や支援方法を柔軟に調整している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		毎日、支援後に掃除を徹底して行き、室内環境の美化に努めている。備品整理や大掃除も定期的に行っている。活動によって、収納や物を移動し、広さを確保できるようにしている。居心地の良い空間を提供している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		子どものその時の状況に合わせて、個別でプログラムを取り組んだり、クールダウンできる場所を確保している。学習時間は、別室で机の位置やパーテーション等工夫して集中して取り組める場所を確保している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		毎日、スタッフ会議を行っている。1ヶ月に1回 職員全体会議も行き改善策を考え実行し検討する場を作っている。	定期的に会議を行い、引き続き、スタッフが全員参加できるように日程調整を行っている。出席できなかったスタッフには、議事録、又はLINEなどで会議で決まったことを共有するようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	2		これから実施していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員ミーティングは定期的を実施しており、気になる点や支援上の課題については随時共有し、話し合う体制を整えている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		可能な限り外部・内部研修に参加し、支援の専門性向上に努めている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		ホームページにて公表している。	利用者にホームページのことを改めて周知していく。	

12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4			
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4			意見交換は恒に行っている。
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4			
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4			
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4			5領域を全利用者の支援内容に盛り込んで計画を作成している。 その他の家族支援、移行支援などは家族の意向や年齢などにあわせて設定している。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4			子ども達の様子を見ながら常勤スタッフ、講師でミーティングを行い立案している。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4			子ども達の成長につながるように段階に応じて活動プログラムを組んでいる。
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1		
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4			
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			更新の一个月前までにはモニタリングを行い、本人主体の計画になっているか目標や支援方法を見直して作成している。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			
25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4			
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			

定期的な保護者面談などを行い、適切な計画の見直しを行っていく。

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	3		今後必要となる。迅速に情報を提供できるように資料をまとめる。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4		今後、機会を設けていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1		家族等の参加できる研修の機会を設ける予定。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			今後行っていく予定。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		4		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4				

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		これから実施する予定。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		研修を行い、策定している。スタッフに周知している。 発生を想定した訓練を行い、行った際は保護者に、LINEで伝達し周知している。 マニュアル等はホームページにも公開している。	取り組んだことをより分かりやすく伝えるように、見える化にしていく。保護者にはLINEだけでなく、ホームページ、会報誌に掲載し周知を徹底していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		BCPを作成している。 事前に避難訓練の方法を伝え、1週間続けて行った。 防災センターに行って必要な訓練を学んだ。 救急救命士を講師に招き、講習を受けた。	今後様々なことを想定した訓練を検討し実施していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		保護者の方とのやりとりで発作や投薬の情報を共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		支援マニュアル等は整備しているが、画一的な指示書に頼るのではなく、子ども一人ひとりの状況に応じた柔軟な支援を心がけている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		主にLINEを使い、連絡が取れるようにしている。行先連絡や、変更があった場合、速やかに伝達できるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット事例集はまだ作成できていないが、スタッフ会議で周知している。	専門家から指示をもらいながら事例集を作成していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		事業所内でも研修の際に、適切な対応に繋げる為、ワークシートを作成し、グループワークを行っている。事業所外の研修にも参加している。	引き続き、研修を行い、日々の支援、関わりを見直していく。更にスタッフの知識を深めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		身体拘束についての責任者を決定し、責任者は研修を受け、事業所内研修を行い周知徹底している。 保護者には、契約時に丁寧に説明している。 やむを得ず身体拘束が必要になった子どもについては、具体的な内容を子どもと保護者に伝え、理解を得た上で、計画書に記載するようにしている。	保護者との連携を更に深めていく。	